

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム 宮之浦
訪問調査日	平成21年3月18日
評価確定日	平成21年4月20日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム 宮之浦
所在地	鹿児島市宮之浦町892番地 (電話) 099-294-1017
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月18日

【情報提供票より】(平成21年3月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数 計	18 人
職員数	16 人	常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,440 円	その他の経費(月額)	9,120 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(3月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえはらクリニック 太田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#	桜島を望めるのどかな田園風景の中、近隣の住宅に溶け込むようにたたずんでいるホームである。目の前の畑では、利用者と職員が一緒になって野菜を育てており、毎日の食卓に季節の彩を添えている。餅つきなどの行事や夜間の消防訓練に近隣の方々が参加されるなど、地域との交流も積極的に行われている。職員は、利用者の安らぎに満ちた日々のために、サービスの質向上に熱意を持って取り組んでおり、法人及びホーム独自の研修会や外部研修の受講など、研修体制も充実している。
---	---

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「地域密着型サービスとしての理念」については、ホームの理念を基に、年2回(上半期、下半期)目標を設定し、日々実現に向けて取り組んでいる。「職員を育てる取り組み」については、ホーム独自の年間研修計画を策定しており、研修受講の機会が確保されている。人事考課により個々の習熟度を確認し、段階に応じた目標を設定するなど、職員の資質向上を図る仕組みが構築されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、評価を行う前に職員会議において評価の意義を説明している。自己評価を、自らのケアを振り返る機会として捉え、全職員で取り組んでいる。外部評価で指摘された改善課題についても、全員で検討して改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や外部評価に対する取り組みの報告を行うとともに、地域との関わりや役割等について活発に意見交換がなされ、サービスの向上に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱を玄関に設置している。家族会があり、運営推進会議には、ご家族代表の出席もある。職員は、日頃からご家族と接する中で、気軽に相談や苦情を言っていたりするような関係作りを心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の高齢者サロンで、認知症への理解を深める活動に協力したり、六月灯や十五夜の行事に参加するなど、地域活動に積極的に取り組んでいる。また、保育園のひな祭りに招待してもらったりなど、園児や小中学生とも交流を図っている。夜間の消防訓練に地域の方々の参加もあり、災害時の協力体制作りも進んでいる。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考え、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念となっている。それを基に、上半期と下半期にホームとしての目標を設定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームに理念を掲示するとともに、会議の冒頭に理念を唱和するなどして共有を図っている。更に、毎月の職員会議資料に目標を掲載し、日々のサービス提供場面での振り返りを行いながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の高齢者サロンで、認知症への理解を深める活動に協力したり、六月灯や十五夜の行事に参加するなど、地域活動に積極的に取り組んでいる。また、保育園のひな祭りに招待してもらうなど、園児や小中学生とも交流を図っている。夜間の消防訓練に地域の方々の参加もあり、災害時の協力体制作りも進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価を行う前に職員会議において評価の意義を説明している。自己評価を、自らのケアを振り返る機会として捉え、全職員で取り組んでいる。外部評価で指摘された改善課題についても、全員で検討して改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や外部評価に対する取り組みの報告を行うとともに、地域との関わりや役割等について活発に意見交換がなされ、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員や社会福祉協議会からのボランティアを積極的に受け入れている。また、地域包括支援センターや市の担当者とは、制度についての相談を行うなど、積極的な連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりや行事については、CDや写真、広報誌等で伝えており、毎月の利用料金請求時に、個別的な報告も行っている。金銭については2名の職員が関わって管理しており、ご家族には確認印をいただくとともにレシートをお渡ししている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。家族会があり、運営推進会議には、ご家族代表の出席もある。職員は、日頃からご家族と接する中で、気軽に相談や苦情を言っただけのような関係作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット毎にスタッフを固定し、馴染みの職員による支援を受けられる体制になっている。働きやすい職場環境にも配慮しており、異動や離職を最小限に抑える努力が見られる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の定期研修やホーム内での勉強会、外部研修の受講等について年間計画が策定されている。人事考課により個々の習熟度を確認し、段階に応じた目標を設定するなど、職員の資質向上を図る仕組みが構築されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや、勉強会での事例発表が行われている。他のホームとの相互訪問も行っており、積極的な交流によりサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ずご家族と一緒に見学してもらうようにしており、入居後も状況に応じて外泊や外出を繰り返して徐々に馴染んでいただくように工夫している。同じ地域の利用者が多く、顔見知りの方と出会うこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者自身ができる能力を活かして、困難な部分を一緒にいながら支えあうことを念頭に置いている。野菜作りや行事の段取り、調理のやり方等、職員が教えてもらう事も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話する時間を多く設けて、利用者の表情や言動から意向を把握するように努めている。また、職員の気づきを大切にしており、些細な事も業務日誌に記録し、全員で検討することで情報の共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族、関係職員で担当者会議を行うとともに、業務日誌からの情報も加えて介護計画を作成している。出席できなかったご家族には、後日説明して承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。毎月の職員会議やモニタリングで現状を把握し、必要があればその都度ご家族や関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人およびご家族の状況や要望に応じて、定期受診時の付き添いや予定外受診の介助、リハビリの送迎等の支援がなされている。また外泊や外出の送迎、訪問理美容の支援なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望するかかりつけ医となっている。通院介助や訪問診療の受入についても支援しており、医療機関やご家族への情報提供も的確に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りのケースは無いが、入居時に重要事項説明書を基に、重度化や終末期におけるホームとしての対応可能な範囲や方法について説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重や尊厳の保持、個人情報の取り扱い等の研修が行われ、適切な対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は決まっているが、利用者一人ひとりのペースや生活習慣を大切にしており、買い物や散歩、ソファでのおしゃべり等、その日の希望に沿った個別的な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行うとともに、偏りのない食事が摂れるように調理方法を工夫している。献立、買い物、下ごしらえ、下膳等、利用者の特技や能力に応じた役割が自然に決まっている。円形テーブルを囲んで、利用者と職員全員が一緒になり、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意見や希望を取り入れ、順番は決めず時間制限もしていない。夫婦で入浴される方もある。入浴チェック表を作成しており、間隔が空かないようにして清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の野菜作りや食事の準備等、普段の暮らしの中で利用者の役割が果たされている。また、切干大根作りや蕎麦打ち等を職員に教えるなど、一人ひとりの生活歴や能力を発揮できるような場面作りもなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑や田んぼの見回り、散歩やドライブ、買い物など、一人ひとりのその日の希望に沿った外出ができるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。一人で外出されそうな時は止めることなく、さりげなく一緒に出かけるようにしている。その際には携帯電話を所持するなど、安全面に配慮した対応を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の協力を得て、どのような災害にも対応できるように訓練が行われている。今年度は近隣の方々と合同で、夜間に消防訓練を実施している。また、日頃より地域の方々の協力が得られるように、運営推進会議等で働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握した上で、栄養バランスを考慮した調理がなされ、食事摂取量もチェックされている。水分摂取については、食事やお茶の時に勧め、夜間においても適宜行っている。	○	水分摂取量について、季節や体調に応じた一人ひとりの大まかな目安を決め、必要に応じて記録に残すなどして職員間で情報を共有し、十分な水分量の確保に努めていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物や花々がしつらえてあり、ゆったりとしたソファで居心地よく過ごすことができる。台所は出入りし易い作りとなっており、調理中の音や匂いで家庭的な雰囲気を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人およびご家族と相談して、馴染みのある家具や小物等が持ち込まれている。畳の部屋もあり、住み慣れた環境で居心地よく生活できるように配慮されている。		